

武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所（RCSC）と日本総合研究所（日本総研）は、デザイン・人・組織の視点で社会価値の共創を探求する研究・実践発表の祭典「ICHIGAYA INNOVATION DAYS～共につくる社会を考える2日間～」を開催します。RCSCと日本総研は、2022年に共同研究拠点「自律協生スタジオ」（Convivi）を市ヶ谷キャンパスに開設、以来、自律協生社会の実現に向けた共同研究を重ねてきました。本祭典は、Conviviでの共同研究の成果に加え、RCSCと日本総研のそれぞれの独自の研究・実践の成果を広く世に問うものです。

主催：武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所

共催：株式会社日本総合研究所

# ICHIGAYA INNOVATION DAYS

## 共につくる社会を 考える2日間／15.・16.

10:00 ▶ 20:00 (16日は19:30まで)

### 各フロアにおける展示等の概要

#### 6F 日本総研の研究と実践の紹介

「認知変容（Cognitive Transformation）を通じた社会変革への挑戦」をテーマに、日本総研が取り組んでいるインキュベーション活動・注力プログラムの展示と、外部有識者を交えたワークショップを行います。  
オープン時間：10時～20時（16日は18:00まで）

#### 5F パートナーや外部有識者を交えたトークセッション

「共につくる社会」をテーマに、有識者や研究パートナーをゲストに迎え、2日間で10本のトークセッションを行います。  
詳細は裏面をご参照ください。

#### 2F RCSC と Convivi による展覧会

RCSC の所属研究員が企業や行政機関と進めている共同研究の成果、及び Convivi において RCSC と日本総研が進めている共同研究の成果を発表する展覧会です。ディスレクシア、創造性教育、自然共生型デザイン、サーキュラーエコノミー、行政の進化、自律協生の地域づくり、ポリフォニック・デザインなどをテーマにした研究の成果を発表します。

#### 1F 懇親会 11月15日|金|20:00-21:45

@MUJIcom 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス cafe コーナー  
おいて RCSC と日本総研が進めている共同研究の成果を発表する展覧会です。ディスレクシア、創造性教育、自然共生型デザイン、サーキュラーエコノミー、行政の進化、自律協生の地域づくり、ポリフォニック・デザインなどをテーマにした研究の成果を発表します。

### アクセス・お申し込み

- 会場：武蔵野美術大学 市ヶ谷キャンパス（東京都新宿区市谷田町1-4）
- Web サイト：<https://rcsc.musabi.ac.jp/2024/10/16/10161045/>
- 参加費：無料（懇親会は別途会費をいただきます）
- 参加方法：右の QR コードよりお申し込み下さい。



※ トークセッションの席数には限りがあります。事前申込をもって席が確約されるわけではありません。

※ 別フロアにて同時配信を予定しています。

### お問い合わせ

武藤一浩（創発戦略センター / リサーチ・コンサルティング部門 マーケティング部 部長）  
mail: muto.kazuhiro@jri.co.jp  
tel: 090-6794-5369

Fri

有識者やパートナーを  
えたトークセッションの  
詳細

11 / 15

13:00  
|  
13:45

**オープニング：市ヶ谷キャンパスの取組紹介**

武藏野美術大学(MAU)：樺山祐和学長、河野通義(連携共創チーム)  
RCSC：若杉浩一所長  
日本総研(JRI)：松岡靖晃創発戦略センター所長

2019年に新設し、学部と大学院、研究所（RCSC）、企業との共創スペースなどを持つ市ヶ谷キャンパス。その位置づけと狙い、これまでの取組について、MAU の学長から紹介。JRI からは、2022 年に開設した共同研究拠点「自律協生スタジオ」（通称：Convivi）の活動を紹介します。

14:00  
|  
16:00

**Convivi Lab：つくること、共につくること**

- ①「共につくる=コ・デザイン」が求められる背景  
専修大学 上平崇仁教授
- ②コ・デザイン、共創の鍵人材、ジェネレーターとは?  
慶應義塾大学 SFC 井庭崇教授
- 一般社団法人みつかる+わかる市川力代表理事
- ③「共につくる」から「私たちがつくる」へ  
有限会社りす 藤本智士代表
- (モデレータ: JRI 井上岳一チーフスペシャリスト、RCSC 若杉浩一所長)

自律協生社会とは、至るところで共創が生まれ、人や組織や地域が生き生きと本領發揮する社会を指します。では、どうすれば共創が生まれるのか?コ・デザインを提唱してきた上平氏、ジェネレーターという新たな人材像を提示してきた井庭氏・市川氏、そしてユニークな共同編集の方法を生み出してきた藤本氏の4人にお話を伺いながら、共に考えてゆきます。

16:15  
|  
17:45

**Convivi Alliance：自律協生の現場から**

北海道東川町、弟子屈町、長野県野沢温泉村、福井県敦賀市、  
熊本県天草市による事例紹介  
モデレータ: JRI 前田直之プリンシバル

先進的かつ実践的に取り組む 5 地域の事例報告を通じて、住民や職員が主体性を発揮し、ステークホルダー間の連携や情報・人材の交流が進む自律協生の地域づくりを実現するためのポイントを見極めます。また、自治体同士による学び合いを通じて、自治体の枠を超えた自律協生関係が育まれる場づくりを目指します。

18:00  
|  
20:00

**Convivial Design Forum: ポリフォニックな社会のデザイン**

- ①Web3 が拓く障害福祉の新たな可能性  
JRI 水嶋輝元インキュベーションプロデューサー
- MAU 大石啓明准教授
- わたぼうしの会 Good Job !センター香芝 小林大祐氏
- ②自律協生の地域づくり  
RCSC 若杉浩一所長、JRI 井上岳一チーフスペシャリスト

Convivi の二つの研究プロジェクトを紹介します。

まず、ブロックチェーンや NFT アート等を障害福祉の現場に活用することで、障害を持つ人々の社会参加や活躍の可能性を広げる試み。次に、大地や子ども、市井の人々などの声を拾い集めて関係を編み直し、そこから地域の未来を構想する新たな地域づくりの方法論を創出する試みについて報告します。

11 / 16

Sat

13:00  
|  
13:45

**多元世界共存のためにデザインができること  
～ディスレクシアの学びの環境デザインプロジェクト～**

RCSC 長谷川敦士教授  
Takram 緒方壽人氏

ディスレクシア（難読症）は日本人の約8%が該当すると推定されていますが、いまだ社会的な認知は至っていません。本プロジェクトでは、このディスレクシア当事者の「環境」「社会」に着目してデザインの可能性を探索しています。本セッションでは、プロジェクトの活動を紹介しながら、デザインとテクノロジーがディスレクシアになにができるのかを問います。

14:00  
|  
14:45

**自然共生のための対話の場をデザインする**

RCSC 丸山幸伸教授  
フロンティアコンサルティング稻田晋司氏

2030 年までに陸域・海域の 30% 以上を保全する「30by30」の目標が掲げされました。これを達成するには、行政施策に加え、住民、自治体、企業の組織を超えた協力と具体的な日々の活動が必要です。本セッションでは、フロンティアコンサルティングとの共同研究を通じ、東京都大島のリビングラボで進行中の取り組みを詳しく紹介します。

15:00  
|  
15:45

**創造性教育の最前線  
学びをデザインすることの学び**

RCSC 長谷川敦士教授  
北海道大学 吉野正則教授  
茨城県教育研修センター 星野優子氏

「これからの中社会で求められる学び」を探るため、RCSC は 2023 年から SIP (内閣府戦略的イノベーション創造プログラム)の一環として、北海道大学と北海道教育大学とともに新しい学びの実践と検証を行っています。本セッションでは、このプロジェクトの成果を共有し、現場の教育に新しい学びをどのように取り入れていくかを議論します。

16:00  
|  
16:45

**サーキュラーエコノミーのデザイン～リペア社会をデザインする～**

RCSC 岩寄博論教授  
日立製作所曾我修治氏、神崎将一氏

サーキュラーエコノミーでは、「リペア（修理）」が注目されています。壊れたモノを修理し、できるだけ長く使い続けることが再評価されているのです。本セッションでは、日立製作所研究開発グループデザインセンタとの共同研究でまとめた、日常的にリペアが行われる「リペア社会」の実現に向けた 5 つの提言をご紹介します。

17:00  
|  
17:45

**政策のデザイン：行政はどこまでデザインできるか I-OPEN プロジェクト**

RCSC 長谷川敦士教授  
KUMANOMICS 橋本直樹氏  
I-OPEN PROJECT 23/24 コミュニティマネージャー 小菅隆太氏

社会課題が「厄介な問題」化する中、特許庁はデザイン経営プロジェクトチーム主導で新事業「I-OPEN」を開始しました。RCSC は 2021 年にその設立要因を調査、2022 年には I-OPEN 内での取り組みをパターンランゲージ化しました。本セッションでは、I-OPEN に関わるお二方と、政策デザインの可能性と展望について議論します。

18:00  
|  
19:30

**クロージングトーク：Progressive な Innovation のために**

RCSC：若杉浩一所長、長谷川敦士教授、岩寄博論教授、丸山幸伸教授  
JRI：松岡靖晃創発戦略センター所長、井上岳一チーフスペシャリスト

MAU と JRI の関係者で二日間を振り返りつつ、「共につくる社会」を実現するために、何が明らかとなり、今後、何が必要になっていくのかを語り合います。明確になった問と新たな問を発見するための時間となることを目指します。

武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所（RCSC）と日本総合研究所（日本総研）は、デザイン・人・組織の視点で社会価値の共創を求める研究・実践発表の祭典「ICHIGAYA INNOVATION DAYS～共につくる社会を考える2日間～」を開催します。RCSCと日本総研は、2022年に共同研究拠点「自律協生スタジオ」（Convivi）を市ヶ谷キャンパスに開設、以来、自律協生社会の実現に向けた共同研究を重ねてきました。本祭典は、Conviviでの共同研究の成果に加え、RCSCと日本総研のそれぞれの独自の研究・実践の成果を広く世に問うものです。

主催：武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所

共催：株式会社日本総合研究所

# ICHIGAYA INNOVATION DAYS

## 共につくる社会を 考える2日間 11月15.・16.

10:00 ▶ 20:00 (16日は19:30まで)

### 各フロアにおける展示等の概要

6F 日本総研の研究と実践の紹介

「認知変容（Cognitive Transformation）を通じた社会変革への挑戦」をテーマに、日本総研が取り組んでいるインキュベーション活動・注力プログラムの展示と、外部有識者を交えたワークショップを行います。  
オープン時間：10時～20時（16日は18:00まで）

5F パートナーや外部有識者を交えたトークセッション

「共につくる社会」をテーマに、有識者や研究パートナーをゲストに迎え、2日間で10本のトークセッションを行います。  
詳細は裏面をご参照ください。

2F RCSC と Convivi による展覧会

RCSC の所属研究員が企業や行政機関と進めている共同研究の成果、及び Conviviにおいて RCSC と日本総研が進めている共同研究の成果を発表する展覧会です。ディスレクシア、創造性教育、自然共生型デザイン、サーキュラーエコノミー、行政の進化、自律協生の地域づくり、ポリフォニック・デザインなどをテーマにした研究の成果を発表します。

1F 懇親会 11月15日|金|20:00-21:45

@MUJicom 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス cafe コーナー  
トークセッションの登壇者、企業、自治体、官庁、武蔵野美術大学や日本総研の関係者と交流いただける懇親会。会費制で、どなたでもご参加頂けます。（会費：一般の方 /2,000円、学生の方 /1,000円）

### アクセス・お申し込み

■ 会場：武蔵野美術大学 市ヶ谷キャンパス（東京都新宿区市谷田町1-4）

■ Web サイト：<https://rcsc.musabi.ac.jp/2024/10/16/10161045/>

■ 参加費：無料（懇親会は別途会費をいただきます）

■ 参加方法：右の QR コードよりお申し込み下さい。

※ トークセッションの席数には限りがあります。事前申込をもって席が確約されるわけではありませんにご注意願います。

※ 別フロアにて同時配信を予定しています。



### お問い合わせ

武藤一浩（創発戦略センター / リサーチ・コンサルティング

部門 マーケティング部 部長）

mail: muto.kazuhiro@jri.co.jp

tel: 090-6794-5369

# 日本総研の研究と実践（インキュベーション活動）の紹介

日本総研のインキュベーション活動は、関係するステークホルダーの方々との対話を通じて、認知変容を起こし、大きな社会のうねりを創り出すことが特徴です。数ある中から10のプログラムを取り上げ、活動内容の展示や共創対話（ミニワークショップ）を実施します。

## 展示予定のプログラム概要

※展示及び共創対話（ミニワークショップ）の内容は現時点のものであり、事前告知なく変更する合があります。

1	<b>流域 DX</b> 統合的水管理とダム等の多目的利用を通じて、流域全体での高度な治水・利水と新たな地域価値創出を目指す取り組み。大学及び異業種が連携する研究会活動と、今後、実証や実装を目指す地域事例をご紹介します。	2	<b>BACE／スマートユース</b> 電気自動車用中古蓄電池の有効利用による、サーキュラーエコノミー市場の創出を目指す取り組み。利用者側起点で働きかける協議会の設立など、これまでの取り組みと最新情報をご紹介します。
3	<b>ニューロダイバーシティ</b> web3 技術を活かして発達障害のある方の活躍機会を拓げる取り組み。障害を持つ人たちと共に創した NFT アートや、そうした取り組みを匿名で応援するデジタルコミュニティ/DAO の活動をご紹介します。	4	<b>B Corp™</b> 「よい企業」のための国際的認証である B Corp を国内企業にどのように普及・浸透させるのか、その先にどのような個人の行動変容が生まれるのか、未来像を考える取り組み。国内の B Corp ムーブメントに関する活動もご紹介します。
5	<b>Narrative Speaking</b> 縮小社会でもヒトの思いや考えを聞く機会が確保される、対話 AI 技術を活用したパブリックサービスの実現を目指す取り組み。対話 AI サービスのデモ展示に加え、対話を通じて得られたさまざまな「声」をご紹介します。	6	<b>カーボン・サイクル・イノベーション</b> バイオマスや CO2 を原料として素材・燃料を作る新技術を活かし、農林水産業と素材産業が融合した地域炭素循環（カーボンサイクル）を目指す取り組み。産官学コンソーシアム活動と、山形県酒田・庄内エリアや宮城県岩沼・石巻エリアの事例を展示します。
7	<b>子ども社会体験科しくみ～な®</b> 学童期の子どもたちに公教育を通じて良質な社会体験を提供し、人生をしなやかに生きるためにアントレプレナーシップを身に付けることを目指す活動を展開。社会／経済／仕事の“しくみ”の体験環境をご紹介します。	8	<b>グリーン・マーケティング・ラボ</b> 生活者の脱炭素の自分ゴト化を促すための、小売とメーカーとともに環境配慮商品の店舗催事や小学校を通じた取組みを展開。実際に店舗で活用されているイベントキットや小学生が作成した作品を展示します。
9	<b>スマート農業</b> 農業者に寄り添うスマート農業の実現を目指す取り組み。多機能型農業ロボット “DONKEY” の実機展示とともに、産官学コンソーシアム、実証プロジェクトを経た事業会社の設立、実機販売までの道のりをご紹介します。（展示協力：株式会社 DONKEY）	10	<b>認知症とともに生きる</b> 認知症当事者と zwarer、誰もが生きやすい社会の実現を目指す取り組み。認知症とともに生きる人々が、やりたいことにチャレンジし、個性と能力を發揮する、暮らしの中のさまざまなシーンをご紹介します。

11/15

### 共創対話（ミニワークショップ）の実施スケジュール

15:00-16:20

#### B Corp™

日本総研渡辺珠子シニアスペシャリスト × 橋爪麻紀子シニアマネジャー

早稲田大学ビジネススクールと共同で開発した B Corp 講座の教材を用いながら、BCorp を一緒に考えます。

11/16

#### Narrative Speaking：人の思いを引き出す対話 AI

emotivE 結束社長 × 日本総研齊木大エグゼクティブマネジャー

ヒトの思いや考えを聞き取り、汲み取るための対話 AI の活用戦略について技術、サービス、ルールから多面的に考えます。

12:00-13:20

#### ニューロダイバーシティ：

#### 「デジタル上で共につくる」障害福祉 DAO の可能性

わたぼうしの会 Good Job !センター香芝 小林大祐氏 × 日本総研水嶋輝元  
インキュベーションプロデューサー

障害福祉での web3 活用の広がりや可能性、匿名性の中で共創するためのポイントをお話します。

13:30-14:50

#### BACE／スマートユース：EV と電池の利用が牽引する サーキュラーエコノミーの新市場

日本総研木通秀樹シニアスペシャリスト × 齊木大エグゼクティブマネジャー

サーキュラーエコノミーの新市場をどのように生み出すか、現在の業界動向・トピックスも交えて考えます。

15:00-16:10

#### 流域 DX：官民連携による治水 DX の実装と 「流域総合水管管理」政策の可能性

国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 河川情報企画室長  
久保 宜之氏 × 日本総研石川智優スペシャリスト

「流域総合水管管理」という新たな政策領域に着目し、最新技術も活かした官民連携の可能性を考えます。

16:20-17:40

#### カーボン・サイクル・イノベーション：地域産業とつながる カーボンサイクル素材産業のポイント

佐賀市 / 山形県 / 酒田市等 × 日本総研福山篤史コンサルタント

山形県酒田市・佐賀県佐賀市を例に、CO2 を原料とする素材産業の構築に向けた構想、官民連携のあり方を考えます。